

3 クラスタ形成事業

(1) クラスタの定義

「クラスタ」(cluster)とは、本来は「ぶどうの房」を意味するが、ハーバード大学のマイケル・E・ポーター教授が地域の競争優位を示す概念として提唱したことにより注目を集めた(注1)。同教授によると、クラスタとは「大学等の研究機関、特定分野における関連産業、専門性の高い供給業者、サービス提供者、関連業界に属する企業、関連機関(規格団体、業界団体など)が地理的に集中し、競争しつつ同時に協力している状態を指し」、「クラスタ全体として個々が持つ機能価値を高め、イノベーションの創出に効果的に機能している」(注2)とされている。

同教授がクラスタ概念を提唱して以降、経済社会のグローバル化の進展による国際競争の激化等も背景として、世界各国において、イノベーションの創出による自国の産業競争力の強化、持続的な経済成長、地域産業の振興や発展等を目的として、クラスタの形成のための政策が展開されることとなった。

我が国でも、平成13年度以降、地域の科学技術振興、産業振興等による地域活性化、ひいては我が国の産業競争力の強化、持続的な経済成長等の観点から、主に文部科学省及び経済産業省によりクラスタ形成のための事業が実施されている。

- (注) 1 同教授の「The competitive advantage of nations」(1990)(邦訳『国の競争優位』)、「On competition」(1998)(邦訳『競争戦略論』)等で示されているものである。
2 当該日本語訳は、「平成14年版科学技術白書」から引用したものである。